

市営火葬場「やすらぎ聖苑」選定審査 会議録概要

日 時 平成 22 年 10 月 22 日（金） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 40 分

場 所 市役所八幡浜庁舎 3 階 庁議室

1 審査概要

(1) 株式会社 竹内商店

【説 明】

竹内商店：当社は、昭和 43 年に八幡浜市花園町で創業し、昭和 56 年に現在地の新町商店街に移転し、現在まで 43 年間、この八幡浜市で、市民の皆様方に信頼していただけるよう日々精進し、誠心誠意、事業経営に取り組んできた。そして本年、株式会社を設立し、新たな分野である八幡浜市火葬場の管理業務を、これまでの経験や信頼を最大限に生かしながら運営させていただき、その中で本業の活性化はもちろん、自分の故郷である八幡浜市のお役に少しでもたてるよう、がんばらせていただければと思います、このたび指定管理者の申請をさせていただいた。

八幡浜市火葬場やすらぎ聖苑の運営管理を行うに当たっては、公平かつ質の高いサービスを提供できるよう、職員の指導、育成を徹底し、受付、案内、及び利用調整業務等を適切に行っていく。そして施設利用者の皆様方の安全確保を最優先に考え、施設の定期的な保守点検はもちろん、日ごろより八幡浜市や関係機関、職員との連携を密にし、事故やトラブルにも迅速かつ適切に対処するとともに、ご遺族、ご親族の皆様への配慮も忘れることなく、安全で、なおかつ心の行き届いた運営管理を目指していく。また施設付近の清掃等を徹底し、環境美化に努め、施設利用者の皆様方にはもちろん、周辺住民の皆様方に対しても気配りを忘れず、クレームや苦情に対しては、誠意を持って心を込めて対応し、ご理解いただけるよう対処していきたい。個人情報については、その重要性を十分に認識し、職員にも周知徹底するとともに、取得した個人情報は、正確かつ安全に取り扱う。そして保有する個人情報については、八幡浜市個人情報保護条例に従い、適切、厳重に管理する。

続いて収支計画は、昨年 9 月から今年にかけての実績に基づき計画しているので、なかなか大幅な経費削減は難しかったというのが現状だが、不要なものの購入を控えること、節電や節水等、節約の意識を常に持つこと、人員や事務の合理化を図ることで、経費削減に努める。これまでの民間事業経営のノウハウや、専門知識、また経営者のネットワークを最大限に活用しながら、経費削減はもちろん、施設利用者の皆様方のニーズに、効果的かつ効率的に対応しながら、常に安定して施設管理を行い、信頼性の向上を図ることを忘れることなく、健全な経営を心がけていきたい。

また私は、新町商店街や社団法人八幡浜青年会議所、消防団、未来塾等、いろんな団体に所属し、ふるさと八幡浜で、地域住民の皆様方と色々な交流をしながら活動している。そして本年 11 月からは、八幡浜商工会議所の 1 号議員として、わが町発展のために、微力ではあるが、これからも尽力していきたいと思っているし、職員の地元採用や、地元業者との提携等により、八幡浜市の活性化に少しでも貢献できるよう、がんばっていききたいと思っている。

人は必ず死を迎える。これは誰もが通る道だが、八幡浜市民の皆様方が迎える最後の旅

立ちを、ぜひ地元業者である私どもに見送らせていただきたい、お手伝いをさせていただきたいという思いが、今回指定管理者に申請した最大の理由である。そして八幡浜市火葬場を維持管理し、運営させていただく際は、施設利用者の皆様方に、きめの細かいサービスを提供し、気持ちよく利用していただけるよう、責任を持って精一杯努めさせていただくことを誓い、説明を終わらせていただく。どうぞ、ご検討の程、よろしく申し上げます。

【質疑応答】

委 員：質の高いサービスとは、具体的にはどういうことを考えているか。

竹内商店：こちらの火葬場の施設の性格上、利益を追求するということはないが、利用者の皆様方に対して、まずは安全第一、そして安心してご利用いただけるよう、従業員の育成も徹底しながら、顧客満足度を上げるように努めたいという思いで、質の高いサービスという言葉を使った。

委 員：冠婚葬祭の業者としての経験はあると思うが、火葬場を運営する上で、このことだけは気をつけたいということは、具体的にあるか。

竹内商店：葬祭業を営んでいるので、ご遺族、ご親族に対しての心遣いの部分は、常に第一に考えている。

委 員：職員の募集は、職業安定所を通してするよう計画されているが、どこに配置し、どの程度の方を採用し、またその人にとっては、初めての仕事ということになると思うが、研修等はどのように考えているか。

竹内商店：操炉業務については、宮本工業所に委託と指定されているので、宮本工業所をお願いする。炉前業務員を2人と、受付、電話担当ということで、パートを1人採用する予定である。従業員への指導、育成については、火葬場の業務は自分が中心に、経験を元に、徹底して指導、教育していきたい。私は大学卒業後に、民間だが火葬場を運営している会社に勤め、そこでそういった業務に携わった経験があるので、そういったところも研修して、業務が疎かにならないように、徹底して指導していく。

委 員：竹内商店が指定管理者になったとして、現段階では炉前の業務員については、新規の方を採用するのか、または経験されたことがある人を想定しているのか。

竹内商店：基本的には職業安定所で採用する予定だが、自分の付き合いの中で、まだ直接は頼んでいないが、少し葬祭業を経験された方が1人いるので、その方も頭の中に入れながら、職員の選定をしていきたい。

委 員：心当たりも、少しはあるということか。

竹内商店：声をかけたい人がいる。

委 員：常勤3人とパート1人を配置するとあるが、組織図の上では5人いるのか、最初の指定管理者は含めず4人なのか、よく分からない。どういう数え方になるのか。操炉業務の方が1人入っているが、この人は人件費ではなく委託料に入ると思うが。操炉業務員を除いて、何人雇うのか。

竹内商店：私もその点を疑問に思い、市に質問したら、操炉業務員も常勤職員に入れてくれという説明だったので、入れている。操炉業務員と炉前業務員A、Bの3人が常勤職員で、事務員がパート職員という考えである。

所 管 課：内訳のところに、分かるように記載してほしいと付け加えていた。

委 員：委託する操炉業務員も、指定管理者の下にいるが、指定管理者が直接雇うのは、炉前業務員A、Bとパート事務員ということでもいいのか。

竹内商店：そういう判断で作っている。

委 員：竹内商店の代表者は、やすらぎ聖苑の指定管理者として、時々現場には出て行くのか。忙しいときだけ手伝いに行くのか。常勤はしていないのか。

竹内商店：本業もあるので、常勤は考えていない。しかし、職員が急病になった場合には、私が代行する。

委 員：現場の責任者は誰がするのか。

竹内商店：総括責任者としては、炉前業務員Aである。

委 員：この人が、さっきあてがあるとっていた人か。

竹内商店：そのとおり。

委 員：人件費のところで、4人で計算しているが、本当は3人か。代表者本人を1人とカウントすれば、計算は合うが。

竹内商店：人件費の内訳の記載が、少し分かりにくい状況になっているが、指定管理者の給料も入れて4人ということにしている。

委 員：給料をもらうということは、現場に行くのか。

竹内商店：運営管理及び火葬場での作業もする予定である。

委 員：緊急事態の対応で、すぐ指定管理者に連絡する態勢の表記になっているが、何かあった場合は、現場の責任者からそちらに連絡が行くのか。

竹内商店：例えば火災のケースでは、まずは消防署への連絡、そして、関係機関、市役所への連絡、あわせて指定管理者への連絡ということを考えている。その後、初期対応や避難誘導、応急処置、そういう流れを図式化して、職員に徹底させていきたいと考えている。

委 員：急な休暇等が発生した場合のシフトは、人数的にはギリギリな感じで回さざるをえないようだが、もし子どもが熱を出して出勤できないときなど、どうするのか。

竹内商店：急な欠勤等があったら、基本的には代役としては私、あと、私の父も対応できるようにするので、緊急的な病気や怪我については、指定管理者か社員で対応したい。

委 員：事務員はパートで4時間態勢だが、残りの時間を3人でシフトを組む場合、事務員がいない場合、電話対応やお茶汲みなどできないのではないのか。

竹内商店：火葬業務状況や時間帯別、月別の業務件数等の資料を見せていただき、約70%が午前中に集中しているということと、火葬が1件という日も結構あったので、1件くらいの火葬件数であれば、A、Bの職員で十分回せると思う。パートについては、その都度勤務時間を変えて対応するように考えている。

委 員：本業は、葬祭業とのことだが、自分で霊柩車を運転して火葬場へ行くと思う。今度指定管理者になれば、火葬時間が重なったときに、全部自分ができるということになると、霊柩車で運ぶときに、待たせない方法を何か考えているのか。例えばGPSを付けて、「もう間もなく着きますよ。」と伝えることも可能だと思う。そうすれば時間の調整もできるし、待たせなくても済む。

竹内商店：今現在の態勢としては、霊柩車が出棺するときは、やすらぎ聖苑のほうに連絡するよ

うになっている。ある程度の到着時間は、火葬場のほうで管理できると思う。

委 員：火葬場はいろいろな方が行かれるので、小さいお子さんが行った場合、おなかが空いたなどと言うことがある。もう一工夫ということを考えれば、八幡浜市にも高齢者や障害者などの福祉団体の方がおられるので、そこに入れてもらって、いくらかでも仕事を増やすということを考えてはどうか。

竹内商店：基本的にやすらぎ聖苑の運営管理においては、そこでの営業、販売は控えるように言われている。

委 員：例え話で言っている。自分が経営する場合、一貫して全部できる。私が経営者だったら、少しでも負担を減らして、その団体に仕事を回すと、ちょっとした草刈りなども融通が利く。トータルで見た場合、コストをどうやって抑えるかは、経営者が考えること。

竹内商店：今アイデアをいただいたので、高齢者や障害者の方の採用も参考にしたい。

委 員：一番心配するのは、電話をしても出ないということ。電話さえあれば、後は予定が立つので、それなりにパートの人の時間を決めればできると思うが、連絡がつかないということだけはおきないようにしなければならない。そういう意味では、常に誰かが電話に出られる態勢にはならないといけない。それは大丈夫か。

竹内商店：そのへんは、職員、パート等、採用する折には徹底させたい。

委 員：竹内商店が指定管理者になったら、現場は責任者に任せ、あまり現場には行かないということだったが、そのところは、経験のある竹内さんが関わっていかないと、現場は回らないと思う。そのところを、指定管理者になる上で、竹内商店本来の仕事が、少しこちらのほうに行くくらいの覚悟でないと、最初は回らないと心配するが、どうか。

竹内商店：最初が一番肝心だと認識している。その点については、現場業務が1番大切な部分なので、最初はつきっきりになるくらい、火葬場に行くようになると考えている。

委 員：葬祭業者が火葬場の指定管理者をすることのメリットがあると思うが、それは何か。

竹内商店：火葬場の運営管理をしっかりとできれば、信頼もつくと思うし、ご遺族、ご親族の方から質問を受ければ、アドバイスもできるし、そういった部分では、接点も増えるので、アドバイスしながら、後々の仏壇や仏具の販売もしているので、そこで信頼関係が生まれれば、本業の活性化にもつながっていくと思う。

委 員：やすらぎ聖苑は1度、市内のほかの業者も参加して入札をし、結局今の業者に落ち着いたという経緯がある。金額的にも大きな隔たりがあったわけだが、22年度に2千732万円という金額でやる上で、心配なところはあるか。この金額で楽にできるということか、あるいは、厳しいけどこの金額で何とかやっつけていけるということか。

竹内商店：全体の経費を見た中で、自分なりに削減方法も考えたが、委託料は実際に契約している金額ということで、削減は難しかったというのが現状。

委 員：ここが厳しかったという点はないか。

竹内商店：1番大きい人件費について、特殊な業種ではあるが、炉前業務については、案内や誘導、収骨の専門知識等を考えても、ちゃんと指導すれば、慣れればこなせる業務だと思う。

委 員：この給料でやっつけていけるということか。人件費は責任者とそれ以外で、363万円と335万円と少し差を付けて、責任者に少し高く出すようになっている。給料は基本的に276万円だから、1月20万円くらいになるが、これでやっつけていけるということか。

竹内商店：少しアドバイスを受けながら、この金額で雇用できると判断して設定した。

委員：目当ての方も、この給料で来ていただけそうか。

竹内商店：金額面については、まだ伝えていない。

委員：指定管理者の人件費が400万円となっているが、場合によっては、その分がこちらへ流れる可能性はあるのか。

竹内商店：そのとおり。金額面については、従業員の意向もあるので、その辺は十分に考える。

委員：本業を活かして今度事業を受けるに当たり、頭の中に大まかなマニュアルはあるのか。緊急対応とか個人情報とかいろいろあるが、実務の流れなども頭の中で作られているのか。

竹内商店：業務については、私も何度か火葬場にも上がっているし、資料も見ながら、だいたいの流れは把握しているつもりである。これから勉強して、職員に対するマニュアルは、文章とか図を入れながら作る予定。緊急時の対応についても、初期対応とかの流れ、連絡網の部分を作っていくたい。

(2) 株式会社 五輪

【説明】

五輪：平成21年9月、新斎場として供用開始されて以来、貴市並びに利用される方々にご指導いただきながら、火葬業務を遂行してきた。私どもも市サイドの取り組みに際し、いわゆる葬祭施設の持つ使命を果たすべく、行政の皆様、業者各位、利用される方々に理解していただくことが、何よりも重要なことと考え、業務への取り組み、施設内の美化等について、職員、関係者一同、一体となって、行動で示すことを心がけてきた。その間、私どものグループ会社が全国で受託させていただいている斎場の情報等も活用しながら、各技術員、教育指導係を置いて教育を実施し、利用される方々に安心、信頼される斎場の管理に努めてきたつもりである。

弊社の事業への取り組みとして、大きな特徴は主として3つである。1つは、炉を設置した宮本工業所、これは私どもの親会社であり、技術面の支援、教育、あるいは保守等について表裏一体となって、迅速かつ適格な内容に基づいて管理運営ができている。また火葬炉については、当然のことながら、その内容に熟知できる環境にある。2つ目には、全国で170箇所の斎場を受託させていただいているが、炉の設計をはじめ、炉の建築、斎場管理の技能など、親会社である宮本工業所をはじめ、多数の技術員、技能員が業務に携わっている。このことから、他社と比べて職員の応援、派遣が容易なので、地震等の自然災害、設備の故障などに対して、親会社と協調をしながら、迅速な対応が可能であると思っている。過去には阪神淡路大震災、新潟県中越地震などを経験、対応してきたことが、大きな強みの1つと思っている。3つ目については、長年受託させていただいている中で蓄積した管理、その他のデータ、あるいは日常の情報等、専門的に教育、研修及び労務的な管理を行う教育指導係を入れ、斎場の業務に活かしている。今申し上げたこと以外に、斎場で勤務する職員について、ただ火葬すればよい、あるいは単に業務を行えばよいという考えではなく、故人の尊厳を敬い、執り行われる儀式を補佐させていただき、そういう故人を受け入れさせていただく際の気持ちだとか優しさは、他には負けない。今までにいただいた評価等を踏まえ、さらに地域における種々のことを学びながら、接遇、あるいは

5 S、あるいは技能、管理面等の取り組みの確認、それからチェック、業務審査等を通じながら、利用される方々に安心、信頼される斎場管理に取り組んでいく所存である。

収支計画書の具体的な数字について、この数字の根拠となるものは、今回の仕様書の中にあつた、上限積算基礎の価格をベースにして検討している。したがって、この積算基礎と弊社の予算で異なる数字がある部分について、説明させていただきたい。

まず人件費に関しては、年々火葬件数も増加するという部分があり、同時に待合ホール等を利用される方も増えてくるので、待合ホールの管理面、簡単ではあるが清掃面、そういったものを充実させたいということと、出棺時には葬祭業者のほうから斎場のほうに、今出棺したという電話連絡が届くが、この電話連絡をきっちり受け取るということと、到着時の受付業務に従事する者ということで、1人、準社員という形で採用したいと考えている。現状、その1人は従事させていただいている。次に需用費の部分だが、光熱水費と修繕費、こちらの部分に関しては、こまめな節水、節減、また斎場も新しいということもあるので、備品や設備を大切に使いしていきたいということを考え、コストダウンを考えている。続いて委託料の部分だが、火葬炉運転管理業務と火葬炉設備保守点検の金額に関しては、親会社が炉メーカーである宮本工業所であるということもあり、宮本工業所との更なる協調を促進させていくということ踏まえ、コストダウンを図ったつもりである。続いて備品費は5万円ということで予算計上しているが、これは光熱水費と同様、節約を考えていきたいと考えている。最後のその他の部分は、一般管理費ということで計上している。通常であれば、2桁近いパーセンテージを当てはめて積算したいところだが、今回は金額に対して1.5%の割合、40万円を積算している。この40万円に対しては、制服代やウエス、研修費等の諸経費にかかる部分を、こちらで管理したいと考えている。

【質疑応答】

- 委員**：御社のクラスになると、フランチャイズ展開は可能か。フランチャイズしてコストを下げるのが普通ではないか。あるいは宮本工業所との関係で無理なのか。
- 五輪**：五輪は、昭和55年に宮本工業所の、斎場の管理運営に携わる、専門子会社として発足して、それ以降、斎場管理と火葬場の受託をさせていただいている。グループ会社で、五輪以外に二十数社あるが、約160ヶ所を五輪で専門的に業務受託をさせていただいている。
- 委員**：事業計画の中で教育費ということがあるが、御社クラスだと徹底されているので、教育費というのは、もっとカットできるのでは。市側でいうと、委託料をもっと下げられるのではないかと。もう一つは、経費面はもう少し浮かせるのではないかと。そういう感じがした。特に御社がされると、コンピューター管理だから、南予にもいろいろ支店を出されているし、専門業務では太刀打ちできない。完全に制圧しているような感じなので、トータルで見たら、もっと削減できるのではないかと感じた。事業計画を立てるときは、楽だったのではないかと思うが、いかがか。
- 五輪**：コスト削減については、我々も甘いところがあるので、この後も引き続いてやっていかななくてはいけないと思っている。斎場については、人件費が占める割合が、非常に大きい。この人件費については、斎場の管理運営、ご遺族に対する接遇、すべて人にかかっている。ただご遺体を火葬すればいいと、あるいは単に業務だけやればいいという考え方だ

けなら、もっと他の方法もある。ただ私どもは、斎場という特異性から、それはやってはいけないという形の中で、全てを正社員として扱って、主業務を正社員でやっている。しかし、そうではない業者さんもいる。そこらは、私どもとコストが違うが、かといって、もし時代の趨勢がそうであれば、考えなくてはいけない面も出てくるのではないかと思っている。そういった面からの教育に関しては、全国で10人の教育指導を専門にやる者がいる。それをブロック別に張り付けて、くるくる回るわけだが、それでも人の接遇面でトラブルが起こり、ご遺族には非常に不快な思いをさせるという事態も、時折見受けられる。それに対する教育費用というのは、本来はもっと強力にしていきたいと思っている。その代わりに、他のところでコスト削減に努めたいと思っている。

委員：コストでは人件費が1番かかると思うが、受付が1番大変だと思う。御社クラスになると、人件費をあまりかけないですむのではと思うところがある。例えば、人が操作する棺台車の音がうるさい。それを自動にすれば人がいない。その分をサービス面に回すとか、いろいろ考えられるのでは。また、いまどき電話で受け付けするのではなく、霊柩車にGPSをうまく使えば、コンピューターで管理できて、誰が見ても分かるとか、その分が、市側に全部流れるとか、アナログではなくてデジタルの時代だから、もう少し工夫があるのでと思う。また、先日案内していただいたとき、マナーがきちんとされていたので、御社の教育の分野を地域に還元してもらいたい。地域貢献というの、いろいろあると思う。例えば接客のレベルアップのために、商店街の方に教育してもらおう。それも無料でやってもらおう。これはありがたい地域貢献になる。

五輪：確かにGPSというのは、いい意見だと思ったが、今のうちにご遺族様、お寺様の中での葬儀に関する輻輳した事態が見られるので、そういうことを逐次、出棺時にこちらに連絡いただいて業務を行っている。私もGPSは大賛成だが、今のところは、デジタル化に一気に行くということはないと思っている。これは葬儀社さんと我々の関係を、もっと密にしながら、お互いに教育を受けながら、今後に反映したいと思う。

委員：配置人員で、常勤職員が3人で、五輪2人、宮本工業所1人とあり、斎場責任者1人、管理責任者1人、操炉補助全般業務1人とあるが、五輪2人は、どこに当たるのか。宮本工業所1人は、どういう立場になるのか。

五輪：宮本工業所1人については、主として操炉、いわゆる火葬業務の執行だが、五輪のほうは主として応接、ご遺族のお迎え、清掃と分けしている。

委員：配置計画の中で、斎場責任者は、五輪2人のうちのどちらかということか。宮本工業所の方ではないのか。

五輪：斎場全体責任者1人は、宮本工業所のほう。

委員：管理責任者1人は五輪、操炉補助も五輪か。

五輪：そのとおり。

委員：人件費の積算根拠だが、ここでいう職員3人というのは、宮本工業所は含めず、五輪の2人と女性の準職員1人ということか。

五輪：そのとおり。

委員：男性の人件費合計で1千100万円くらいになるが、その内訳は。

五輪：2人とも同じ金額である。

- 委員：宮本工業所の齋場責任者分は、この経費の積算には入っていないのか。
- 五輪：人件費には入っていない。委託料の中で計算している。
- 委員：職員2人の勤務時間が8時30分から17時、準職員が9時から16時。アルバイトの人も夕方まではいてもらい、給料は3人の合計で660万円。これは最低賃金はクリアしているのか。準社員の時給はいくらか。
- 五輪：最低賃金はクリアしている。準社員の時給は850円で計算している。
- 委員：その他の経費を40万円で積算しており、売り上げの1.5%という説明だったが、もう少し細かい積算はしていないか。被服費がいくら、ウエスがいくらで、租税はどれくらい見込んでいるか。
- 五輪：一般的に諸経費と言われるものだから、細かい積算はない。租税は38万円くらいを見込んでいる。そうすると40万円では足りないのは目に見えているが、上限設定があるので、それをクリアするために、40万円で抑えた形にしている。現時点で、市税で20万円弱、県税として十数万円を納めている。
- 委員：それは委託のところとかどこかで、経営努力をして削減するということか。
- 五輪：できれば外部委託費の中でコストダウンをしながら、努力したい。
- 委員：それは、親会社である宮本工業所に、もっと安くしてもらおうということか。
- 五輪：当初は651万円だったが、それを617万円に抑えていただいた。さらなる対応も必要と思っている。
- 委員：今勤務しておられる4人は、どこから通っているのか。
- 五輪：3人が八幡浜市内で、もう1人が市外である。
- 委員：市外から通っているのは、責任者か。
- 五輪：そうではない。責任者は八幡浜市内である。
- 委員：常勤2人のうちの1人が市外から通っているのか。
- 五輪：そのとおり。
- 委員：引き続き指定管理者になっても、市外から通ってくるのか。
- 五輪：当分の間は、そういう形になると思う。元々彼を雇用したのは、人物的にも技能的にそれなりのものを持っていたからだが、市外ということで、もう1度検討し直さないといけないと思っている。
- 委員：八幡浜市内も雇用の場が少なくなっており、市の税金も使っているのだから、できれば地元の雇用というのが、市の気持ちとしてある。
- 五輪：承知した。
- 委員：緊急事態への対応で、何かあった場合は、他の施設から応援に来るとすることも書かれているが、他の施設も人員の余裕がないのではないか。
- 五輪：弊社は松山市から受託しており、契約人数は4人だが、今は5人配置している。だから1人はフリーな状態なので、その1人がすぐに駆けつけられると考えている。
- 委員：この業界は、今後どういう方向に行くと考えているか。
- 五輪：就業されている方が高齢化し、企業も経費の問題でアウトソーシングが増えてきていると思う。要求されるコストも厳しい。一般企業であれば、一般管理費は10%以上で計上するのが普通だが、そういったこともなかなかできないという形の中で、苦しんでいると

というのは事実である。なかなか受けられないというケースも、出ている。

委員：業者にとっては、霊柩車から斎場まで全部やったほうが、メリットがあるということか。コスト的に考え、トータルで全部引き受けるという考えにはならないのか。

五輪：霊柩車の部分まで行くと、既存の葬祭業者を圧迫する形になるし、我々としては、こちらのほうには手を出さないし、まだ出したくない。我々はあくまで斎場を中心とした形の中で業務に取り組んでいきたいと、今のところは、まだそう考えている。

委員：今提示されている指定管理料の金額は、ぎりぎりで厳しいと思っているのか。よそに比べても八幡浜市は厳しく、これでは受託できないというレベルか。

五輪：厳しいと思う。

委員：前回、地元業者も入れて入札したが、最初から低い金額で来られたので、経営のノウハウか何か、地元の業者と比べて差があったのか。

五輪：人件費が1番大きいウエイトを占めるので、今業務に携わっている人をどうするかということ。例えば、パートを3人、管理職員を1人という形でやっている業者もある。そういう形で人件費に差がつくところはある。ただ、それをすると、仕事上、満足していただける仕事には取り組めないであろうと思う。我々もそういう失敗を繰り返している。やはりこの仕事は人で左右する。また、遺族にとっては、生涯1度のことなので、その場で失敗することは、許されないことだと思っている。そうすると、どうしてもしっかりした人間に対応してもらいたいという気持ちになる。今までのところ、我々はそういう気持ちで業務に取り組んでいる。

委員：斎場全体の責任者は、宮本工業所の方ということだが、他の施設でも同じような考え方か。斎場全体は五輪が責任者を置くのではなく、全ての施設で宮本工業所の方がトップにおられるのか。指定管理者は五輪という中で、トップは宮本工業所の方というのが、周りから見たときに、ちょっと違和感があるのでは。

五輪：新しい斎場でもあるし、早くきっちとした形で立ち上げないといけない、運営していかなくてはならない、業務に取り組んでいかなくてはならないという中で、一番技術も持っていて、識見ともに1番優れた人間を責任者として選んだので、基本的にはイレギュラーかもしれない。

委員：責任者は、今おられる方が引き続いていかれるのか。

五輪：とりあえずはこの形で進めさせていただきたいと思っている。五輪のほうを早く育て、最終的には五輪の者を責任者としていきたいと思っている。

2 採点結果

採点の結果、株式会社五輪が、457点/600点満点で第1位となり、株式会社五輪を、やすらぎ聖苑の指定管理者候補者として市長に報告することについて、全会一致で決定した。

※株式会社竹内商店の採点結果は、当事者に通知しており、公表はいたしません。